



白隠の生涯（下） 法施利他の 実践

柳 幹 康

白隠は自ら「大悟小悟、数を知らず」と言うように、その生涯において大小数多くの悟りを得ました（『壁生草』巻下）。彼の門下で編まれた『年譜』（伝記）は、そのなかでも特に重要なものとして三回の大悟——二十四歳で得た最初の大悟と同年のうちに師の正受の下で得た大悟、および前回見た四十二歳の大悟——を挙げ、最後の大悟以前を「因行格」（修行により悟りに向かう段階）、それ以後を「果行格」（得た悟りにより衆生を救う段階）に二分しています。いわば四十二歳の大悟が白隠にとって、自身の修行から他者の救済に転ずる契機となったのでした。

この点について白隠は晩年、次のように述懐しています。

かつて春日大明神は解脱上人に「たとえ

智者高僧といえども、菩提心の無い者は
みな尽く魔道に墮ちる」と仰った。……二
十五歳の時に疑問に思い、その後四十二
歳にしてハタとこの一大事に辿り着き、
はつきりと分かった。菩提心とは何か。
それは法施利他の善行である。以来、四
種の誓いに鞭打ち、八十を過ぎた今にい
たるまで、決して倦むことなく、五十里百
里先でも依頼さえあれば出かけていき、
できる限りの法施を行なってきたのだ。

（『壁生草』巻上）

この言葉通り白隠の後半生は、法施利他——
法の施しによる人々の救済——に邁進するも
のでした。その内容は多岐にわたっています
が、とりわけ重要なものとして以下の三種を
挙げることができます。

第一が参禅者の指導です。先の述懐にも
あつたように白隠は、各地を巡錫して法を説
いたほか、老若男女や僧俗を問わず人々を精
力的に指導しました。例えばその著『於仁安
佐美』には隻手の公案（禅の課題）により各
地の人々を指導した実績として、「明石城下
では十九歳の武士を初めとして、尼僧および
在家の男女七八人、備前岡山城下では武士七
八人と町人三四人、備中井山と総社の間で
は、十五歳の女子、十九歳の婦人を初めとし
て男女十人あまり、京都でもほぼ同数の人々」
が悟つたと記されています（巻下）。もちろ
ん各地からも多くの人々が白隠の下に集い、
その門下からは優れた禅僧が輩出されました
（高橋敏『白隠』岩波書店、二〇一四年、頁
一一二）。

第二が書物の執筆・刊行です。白隠は数多

くの作品を著し、積極的に出版しました。その内容は概ね、一般向けに和文で書いた平易なもの、禅僧向けに漢文で書いた難解なもの、二種に分けられます。うち前者を集成・翻訳したものに『白隠禅師法語全集』全十五冊があり（芳澤勝弘、禅文化研究所、一九九〇—二〇〇二年。うち一冊は総合索引）、両者および関連文献を広く集めたものに『白隠和尚全集』全八巻があります（後藤光村、龍吟社、一九六七年）。本連載もこれらに多くを依っています。

第三が墨蹟・禅画の作成です。その全国的な調査をした芳澤勝弘によれば、白隠は十万点もの作品を制作したと目され、数年間の調査で実見できたものだけでも約三千五百点、その多くが六十歳以降のものだそうです（白隠はなぜ多作なのか）『禅入門』淡交社、二〇一

九年）。うち千五十点が『白隠禅画墨蹟』全三冊に収められています（花園大学国際禅学研究所編・芳澤勝弘監修解説、二玄社、二〇〇九年）。

このように白隠は、参禅者に対する直接の指導のみならず、書物・墨蹟・禅画など様々な手段を駆使し、無数の人々に教えを施し続けたのでした。白隠は今から約二百五十年前に八十四歳でその生涯を閉じましたが、我々は今日もなお、彼が残した法を通してその菩提心に触れることができます。

【主な参考文献】（第二、四回）

芳澤勝弘「新編・白隠禅師年譜」（禅文化研究所、二〇一六年）。

同「白隠 禅画の世界」（KADOKAWA、二〇一六年）。

柳幹康（やなぎ みきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所副所長・准教授。著書に『永明延寿と「宗鏡録」の研究——一心による中国仏教の再編』（法藏館）。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

*ズ切りは毎月1日です。

『花園』へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園 係

*住所、氏名を必ずお書きください。

*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

*なお投稿はお返しいたしません。

花園
hanazono

「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花園】第69巻 第7号(通巻第815号)

令和元年7月1日発行(毎月1日発行)

定価55円

【発行人】栗原正雄

【編集人】畠中寿浩

【印刷人】喜田眞司

【発行所】〒616-8035 京都市右京区花園

妙心寺派宗務本所 教化センター

振替／01060-9-1400番

電話／075-463-3121番

表紙の絵 「気持ちは明るく
心はしずかに」



穏やかに、
笑顔で明るく生きていると
幸せが循環する 絵・花咲幸絵

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,560円(税・送料込)です。
下記のお電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。